**パラグアイ内政・外交報告（４月分）**

**政治情勢**

**２０１５年５月作成**

内政では，空席となっている最高裁判所判事１名の選出を巡り，コロラド党内でカルテス派とベニテス派の対立が顕在化した。７月末の党首選挙に向け，右対立が深まることは必至であり，カルテス大統領の政権運営への影響が懸念されている。また，法王フランシスコが７月１０日から１２日にかけてパラグアイを訪問することが決定し，国全体が歓迎ムードに包まれた。

外交では，カルテス大統領がパナマで開催された米州首脳会議に出席し，同会議のマージンで企業家等との会談を積極的に行った。また，ニン・ノボア・ウルグアイ外相が就任後初めてパラグアイを訪問し，ロイサガ外相との会談を行った。両外相は，EU-メルコスールFTAの早期締結への戦略的関心を表明し，ニン・ノボア・ウルグアイ外相がアカラウ水力発電所からのエネルギー購入への関心を表明した。

**１　内政**

**（１）法王フランシスコのパラグアイ訪問予定**

●１６日，法王庁報道局は，法王フランシスコが本年７月１０日から１２日にかけてパラグアイを訪問する旨発表した。最終的な全体日程は５月に固まる予定であるが，現在のところ，７月１０日にアスンシオンにおいてミサを執り行うことが確定しており，また，１１日にはカアクペ教会堂におけるミサを執り行う可能性がある。なお，ミサへの参列者は３００万人に上り，そのうち１００万人程度がアルゼンチンからの参列者になると見られている。なお，同訪問の準備にかかる費用は２００万ドル強と推定されている。

**（２）ペラルタ公務庁長官の議会召喚**

●ペラルタ公務庁長官が，ラジオ番組において，議会事務局職員の高額給与につき，「市民に対する詐欺」であると批判したこと受け，４日，ジャノ下院議員は同長官を議会に召喚することを決定した。

●９日，議会に召喚されたペラルタ公務庁長官は，当該ラジオインタビューは全体の文脈から切り離され報じられたものであり，本来の趣旨とは異なるニュアンスで伝わってしまった旨弁明した。

**（３）上院における最高裁判所判事の選出**

●１６日，上院において，空席となっている最高裁判所判事１名の選出にかかる審議が行われ，投票の結果，３４票を獲得したリンネオ・インスフラン候補が選出された。主に野党及び大多数の与党コロラド党上院議員（ベニテス派）がインスフラン候補に投票し，カルテス派が推していたエミリアーノ・ロロン候補は８票を獲得するに留まった。右結果により，７月末の与党コロラド党党首選挙に向けて，アブド・ベニテス上院議員を支持するベニテス派（主に党内上院議員）とペドロ・アリアナ下院議員を支持するカルテス派（主に党内下院議員）との対立が鮮明になった。今後，カルテス大統領がインスフラン候補を正式に任命するか否かを決定することとなる。

**（４）アスンシオン市長選挙を巡る動き**

●１４日，マリオ・フェレイロ・ニュースキャスター（２０１３年大統領候補，現時点では無所属）が１２月に行われるアスンシオン市長選挙への立候補を表明した。

●２２日，アルナルド・サマニエゴ・アスンシオン市長が市政運営の成果を発表するプレゼンを行い，同プレゼンの中で本年１２月のアスンシオン市長選挙に立候補する旨発表した。なお，サマニエゴ市長は，同プレゼンにおいて，①雨水配水管配備率の５％から２０％への増加，②交通渋滞緩和のための代替道路の舗装，③アスンシオン市のイベロアメリカ・緑の都市への指定の３点を中心とする成果を公表した。

**（５）ラ・ナシオン社の買収**

●１５日，カルテス大統領の姉であるサラ・カルテス女史が，自身の経営する企業を通じ，メディア・グループ・ラ・ナシオンの株式の過半数を取得し，同グループを買収した。同グループはラ・ナシオン紙，クロニカ紙の他，ラジオ２局から成る。買収を巡っては，同グループにカルテス大統領の影響力が及ぶ可能性があり，報道の中立性が保たれなくなるとの批判が出ていた。これに対し，サラ・カルテス女史の代理人は，経営権はサラ・カルテス女史にあり，同グループのこれまでの経営方針を引継ぐ予定である旨述べ，カルテス大統領の影響を否定した。

**２　外交**

**（１）カルテス大統領の米州首脳会議出席**

●１０日～１１日，カルテス大統領は，パナマにて開催された第７回米州首脳会議に出席するとともに，同会議のマージンにおいて，米国商工会議所との会談，バスケス・ウルグアイ大統領との二国間会談等を実施した。

＜米国商工会議所との会合＞

●１０日，カルテス大統領は，同会議所会員企業に対し，パラグアイへの投資環境について説明を行い，また，同席したペーニャ蔵相及びレイテ商工相は，パラグアイに投資する魅力及びメリットについて発表を行った。

＜CNNへの出演＞

●同日，カルテス大統領は，CNNスペイン語版のTV番組に約１０分に亘り生出演し，パラグアイの投資環境について述べた。また，ベネズエラ情勢について，「（パラグアイ政府は）支援する意思があり，ベネズエラは（現状を打破するためには）他国に協力させるべきである」旨述べた。

＜第２回米州企業家サミットへの参加＞

●１０日，カルテス大統領は本件企業家サミットにおける講演において，「パラグアイは未来に向けて確実に前進する国家である」旨述べ，「パラグアイは，信頼性・予測可能性を兼ね備えており，現在は透明化を促進している。汚職と無処罰に対しては容赦しない」旨付言した。また，企業家に対し，｢是非パラグアイを訪問し，自分の目で現状を確かめて欲しい｣旨述べた。

＜バスケス・ウルグアイ大統領との会談＞

●１１日，カルテス大統領は，米州首脳会議のマージンで，ウルグアイとの二国間会談を実施した。同会談において，バスケス・ウルグアイ大統領は，ウルグアイはパラグアイのアカラウ水力発電所からのエネルギー購入に関心を有している旨述べた。また，カルテス大統領は，バスケス・ウルグアイ大統領からウルグアイ訪問の招待を受けた。

**（２）ニン・ノボア・ウルグアイ外相の当国訪問**

●２８日，当国を公式訪問したニン・ノボア・ウルグアイ外相はロイサガ外相との会談を行うとともに，両国外務省関係者を含めた拡大会合を行った。

●その後行われた共同記者会見をおいて，ロイサガ外相は，両国間の良好な二国間関係，ウルグアイの関心事項であるエネルギー分野での協力等につき，意見交換を行った旨述べるとともに，モンテビデオ港やヌエバ・パルミラ港におけるパラグアイに対する便宜につき，感謝の意を述べた。これに対し，ニン・ノボア外相は，今次訪問が先般の米州首脳会議のマージンで行われた二国間首脳会談のフォローアップを目的とするものである旨述べるとともに，両国は国土が小さいものの，その価値観や信念は大きく，共通のアジェンダを有している旨述べた。

●なお，拡大会合後に署名された共同声明の主なポイントは以下のとおり。

－内陸開発途上国であるパラグアイが抱える問題の克服に向け，国際法に則った各種メカニズムが機能することの重要性を強調。

－天然資源に対する主権行使を尊重しつつ，エネルギー分野での協力促進の重要性を表明。

－ニン・ノボア外相がアカラウ水力発電所からのエネルギー購入への関心を表明。

－メルコスールの重要性を再確認するとともに，EU-メルコスールFTAの早期締結への

戦略的関心を表明。

**（３）外交写真集２０１３―１４の発表におけるロイサガ外相のスピーチ**

●２０日，当国外務省において，カルテス大統領出席の下，２０１３年－２０１４年期のパラグアイ外交に関する写真集の出版発表会が行われ，ロイサガ外相がスピーチを行った。同外相は，スピーチの中で，国際場裡における諸国家の協調に積極的に参加することが，パラグアイ国民の社会福祉の実現に向けた取組を活性化させると確信し，その意味において，政権発足時の目標であった，メルコスール及びＵＮＡＳＵＲへの参加を含めた国際社会への復帰が早期に実現できたとことは言及に値する旨述べた。また，今後の優先事項は，６月のメルコスール議長国就任及び７月の法王フランシスコの当国訪問である旨述べた。

**（４）新外務副大臣の就任**

●１７日，カルテス大統領は，同日付大統領令第３２９７号をもって，オスカル・カベージョ・サルビ外交官学校長を外務副大臣（政務担当）に任命した。カベージョ新外務副大臣（政務担当）は，駐スペイン大使を務めていた２０１３年に定年退職したが，その後復職し，外交官学校長を務めていた。なお，外務副大臣（政務担当）のポストは，２０１４年１２月にフェデリコ・ゴンサレス外務副大臣（当時）が国連常駐代表として転出して以降，空席となっていた。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●２１日，レナート・ウェーバーEU議会議員（カルテス大統領表敬等）

●２８日，ニン・ノボア・ウルグアイ外相（ロイサガ外相との会談）

**（２）往訪**

●９日～１１日，カルテス大統領等，パナマ訪問（米州首脳会議出席）

●１３日～１８日，レイテ商工相，ブラジル訪問（企業家との会合出席）

●１６日～２１日，ペーニャ蔵相，米国訪問（IMF･世銀春総会出席）

●２０日～２１日，ヒメネス・ガオナ公共事業通信相，チリ訪問（閣僚会議出席）

●２０日～２２日，ガッティーニ農牧相，チリ訪問（農牧関係会議出席）

●２４日～５月２日，ガッティーニ農牧相，イスラエル訪問（農業技術展出席）

●２５日～５月２日，レイテ商工相，米国訪問（ラ米・イスラエル会合出席）